

問題行動をとる知恵おくれ生徒の指導

菊池 俊一*

はじめに

すべての生徒が、目をかがやかせながら、生き生きと毎日の生活にとりくむ積極的な姿を見ることを願っている。しかし、生徒は養育された環境によって、無気力な生活態度や不安定な精神状態におちいり、問題行動にながれることが多い。生徒をとりまく環境、中でも親子関係が生徒の生活、行動に与える影響が非常に大きい。殊に知恵おくれの生徒にとっては、狭い人間関係の体験の中で、親子関係からくる心理的作用は人格形成上強い影響をもっているとみななければならない。親と子に教育相談を試み、親と子の関係と子供自身に好ましい変容を期待したのである。

I 研究のねらい

まちがった親の愛情と子供の歪んだ性格からくる問題行動を探り、正しい生徒理解をすすめることにより生徒が学校生活へ適応するための援助過程を明らかにしながら、その変容の姿をとらえる。

II 生徒の概要

1 対象生徒 M・S 中学校特殊学級2年生女子

2 知能と学力

○知能 — WISC知能診断検査 IQ・70, (言語性IQ66, 動作性IQ70)

○学力 — 小学校3年生程度

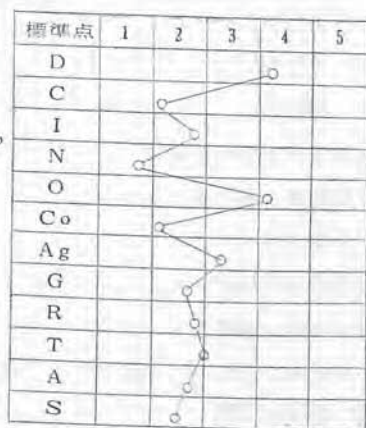
3 性格と行動

○性格 — 矢田部ギルフォート性格検査 C類型(安定消極型)

右のプロフィールを見ると消極的で活動性が低く、内向的である。特に、抑うつ性(D), 主観的(O), 非活動的(G), 服従的(A), と社会的内向(S)の非主観的な傾向が強くあらわれている。これらは日常観察と一致する所が多い。

○行動 — 動作は遅く、活気に乏しく、常に追従的である。忘れ物が多く注意されてもあまり意識しない。ソシオメトリックテスト(5月7日調査)では孤立児であった。

4 生育歴



(図1) YGT結果

幼児期に父が交通事故、入院、死別、母の再婚など複雑な環境に育ち、幼稚園、小学校への入学当時は登校拒否傾向を示し、性格も暗くなり、無口で一人遊びを好むようになった。

* 新発田市立本丸中学校

5 家庭環境

母 — 35才 病気がちで定職がない。宗教に熱心であるが生活能力に乏しい所が見られる。

弟 — 小学校特殊学級5年生 かん黙の傾向が強い。

弟 — 小学校2年生 無邪気で活発 家庭を明るくしている。

母子家庭、生活保護家庭である。弟2人とは父親が異なる。家は新興住宅地にある長屋で3部屋。部屋は雄然としており、足の踏み場もないような状態のことが多い。

Ⅱ 問題行動とその原因の分析

1 問題行動

○情緒不安と孤立

無気力で、行動は消極的であり、学習への意欲はうかがわれない。入学当初から被害意識が強く、いじめられるからと言って休むことが多かった。進んで集団に参加しようとせず、友だちが誘っても引ひき込むことが多い。

○盗癖

小学校当時から盗癖あり、中学生になつてからも、他人の飼い犬をつれてきて飼ったり、万引きで訴えられたり、近所の干し物を盗んで警察に保護されたこともある。

○失そう

小学校当時も数回失そうしたことがあり、中学生になつてからも2回、夜になつても帰らず、警察に保護願いを出す、夜半に帰宅する。近くの草原でねむってしまったと言う。

○虚言

母をだまして金銭を持ちだしたり、学校の給食費だと言って祖母をだます。忘れ物をしても言いわけをし責任を転嫁したり、友だちとの約束も守らないため信用が薄い。

2 原因と分析

(1) 潜在的原因

○母の態度 — 子供に対して一貫性がなく、自分の感情によって左右する。家が貧しいこと、父親がないことを極度に意識し、それが逆に甘やかしている結果を招いている。又、Mには中学生なんだと言う期待感が強くなり無理な要求をし、挫折感を与えたり、他の普通児と比較し、欠点を指摘しては劣等感を増大させている。

○祖母の態度 — 母にしかられると、Mは自分を正当化して祖母に訴える。祖母は孫かわいさに同情しでき愛の態度をとり甘やかしている。

○近所の態度 — 問題児視して警戒し、自分の子供たちを近づけようとしない。

(2) 直接的原因

○過去の生活経験からくる性格的特性 — 幼児期における自己中心的で、勝手気ままな生活から、家庭環境の変化、社会性を要求される集団生活への急変と、過去の生活経験から一変した生活に遭遇し、うまく適応できず、集団生活に拒否的な態度をとり、自己防衛的態度で終始し、集団からは拒否と排撃

の体験をさせられ、歪められた性格を形成したものと考えられる。これは矢田部ギルフォード性格検査からも明らかのように、主観的で非活動的な無力感になったものと思われる。一方、学校や親から期待され、時には能力以上の要求がなされ、やる気がなく怠けているものと判断され、自分なりに努力しても認められず挫折感が残り、自己蔑視と無力感はいよいよ深められぬきたいものとして固着した。

○親子関係の歪み — 親子関係診断テストでみられるように、母子共に消極的拒否型①を示し、不信用、悪感情、不一致感、又は愛情表現に欠陥があるものと考えられる。母は期待型④、不安定⑤である。子は積極的拒否型②、厳格型③、干渉型⑥、でき愛型⑦とみており、親子関係に問題が多く、相互に矛盾や不信任が内在している。



(図2) 親子関係診断テスト結果

Ⅳ 指導計画とその実践経過

1 指導の計画

潜在的な情緒不安からの問題行動や、無気力で集団から孤立している状態を脱皮させるため、生活環境を改善し、積極的に精神の健康を促進するため、自発的な表現活動を促す必要がある。中でも対人関係を促進させるため、ことばによるコミュニケーションを大切にし、表現力の発達をはかり、話すことによりうっ積した不満や情緒不安を解消させ、自分の感情を素直に表現させ、それを受容できる環境を形成し、歪められた性格の変容を期待し、次のことを指導の重点とした。

- ①教育相談をとおして、心の内面に働きかける。
- ②生活記録を通じて、心情を豊かにし、表現力を高める。
- ③学級における人間関係の調整をはかる。
- ④母親との面接により、養育態度に変容を期待する。
- ⑤諸機関との協力による家庭生活、近隣関係の改善をはかる。

2 実践と経過

(1) Mとの面接 週1回 定期的、計画的に15回実施、時間は30分間。

第1回(5月2日)

うなだれて下をむき、自分からは話さない。緊張して体を固くし、聞かれると首をふって返事をする。沈黙の連続で時間が経過する。来週も相談したいがと言うと「はい。」と一言はっきり言う。

第3回(5月15日)

前半は沈黙が多い。家庭での生活のことを聞くと細ぼそとした声で、弟とのテレビのチャンネルのとり合いのこと、11時頃まで母とテレビを見ていて朝ねむいことを話す。弟がわがままで乱暴し、しきると泣いて母に言いつける。弟が悪いのにしかられるのはいつも自分だと感情的になる。

第5回(5月29日)

友たちのことについて話す。学級の男子は割合親切だが、1年生のM君が友だちに乱暴し、友だちめかわいそうたと言う。Sさんは小学校のときから私に意地悪をしてきた、今でも時々意地悪をされる。私はなにもしないのに、Sさんは悪い人だと訴える。

第8回(6月26日)

日記のことで自分から話す。先生が赤鉛筆で書いたのにつけ足していくのが楽しい。今まで日記を書くのがきらいだったが好きになってきたと言う。話し方に積極的な態度がみられるようになった。

第10回(7月14日)

笑顔を見せながら相談に入る。友だちとスーパーマーケットへ買い物に行く約束をした。相談が終了たらずぐ行くんだとうれしそうに言う。母がいないときには、夕食をつくって待っている。いろいろな料理がつかれるようになったと料理のことを話す。

第12回(9月4日)

みんな遊んでいたけれども、私だけ掃除していたら先生にほめられたと言う。一生懸命やってほめられたので気持ちがよいことを話す。今までにほめられたことをいろいろと話す。自分でよいことだと思ってもやってもしかられるときがあると、おとなの矛盾した態度に疑問を持つ。料理してほめられると思ったのに、母から甘すぎるとか、塩辛いとしかられる。母は自分勝手だと母の態度を批判する。

第15回(9月11日)

恥ずかしそうに、細ぼそとした声で勉強したいと言う。分数の計算と珠算がわからないので困っている。卒業してからよい所に就職したい。勉強するためお母さんと一緒に行って、新しいノート、鉛筆、筆入れを買ってきたこと、毎日机に向って宿題をするようになったこと、私が勉強すると弟もまねし、机のとり合いをし、勉強のじゃまになるなど、話し方がだんだん力強くなってきている。

②) 日記指導

相談と共に内面化をはかるため、毎日の生活を記録し、一日の生活を反省することと、表現力を豊かにするため添削を試みた。

○月○日 はれ ○時○分

がっこうからかいってからてれびをみてそしておかあさんにてつだいしたそしてよるてれびをみて10
 ? ? テレビ (どんなばんぐみ) ? ? テレビ
 がっこう え まんが の を

時にねた。

○どんなおてつだい —— なをきったりふいたりならべた。

○おかあさんはどうでしたか —— にこにこしていた。

○月○日 はれ ○時○○分

きょうはうちにかえってミコがとびついてきたのでミコとあそびました。ミコはよろこんでごろごろ
 (どうしてとびついたの) (どんなことをして)
 よろこんで だいたりなでてやりました

言いました。そしてテレビのまんがをみて勉強してテレビをみて11時にねました。

(どんな)

ウルトラマンタロウ、こいはだいきち

○ミコはどんなねこですか —— 小さくてかわいいかおをしたねこです。

○ウルトラマンタローはおもしろかった——あんまり好きでない、弟がみるのでみた。

(3) 学級における人間関係の調整

○教師の態度

生徒との接触の機会を多くもつ、目立たない生徒の心のつぶやきにも触れるようにする。又、生徒の能力を考え活動の場をつくり、一人一役制をとり集団への参加意識を持たせ、賞賛は全体の中で行ない学級全体で認め合い、しっ責は本人の反省を促すよう個人的に行なう。

○学級の仲間意識を高めるためのグループカウンセリング

学級活動を利用し、週1回、5～6月に7回実施した。

初期（1～2回）

話す生徒に限られ、他の生徒はほとんど沈黙することが多い。話題は学級成員の個人攻撃で終始し、騒然となることが多かった。

中期（3～5回）

回を重ねるごとに沈黙の生徒も話題に参加するようになり、発言しない生徒はなくなる。話題も個人攻撃から成員の身近な共通問題が多くなった。

後期（6～7回）

全員発言するようになり、発言の態度、内容も好ましい方向に進むようになった。他の発言に対する聞き方もできてきて、他人の立場を理解しようとする態度がみられるようになった。話題も学級生活の向上を目指すようになり、問題解決への努力もうかがわれる。

(4) 母親との面接

Mの失そう事件を契機に定期的実施し、7回行なった。時間は30分間。

第1回（7月4日）

はじめは事件直後のためか、Mの悪い所を指摘し、私は子供のために一生懸命なのにどうしてあんな子供になったのか、近くの同年齢の子供はみんな立派なのに自分の子だけがどうしていつまでも手がかるのかと訴える。又、近所の人達が私の子を変な見方をし一緒に遊ばせてくれない。私にまで変な態度をし、肩身が狭くて外にも出られないと自己中心的な考え方をする。子供に対しては自分の考えを押しつけ、親の意志どおりに行動させようとしていることを強く感じた。

第4回（7月21日）

子供が勉強するようになったし、手伝いもよくするようになってうれしい。このような生活のできるのは信仰のお陰だと言う。子供向けの宗教の全集を買って与えたがよるこばないと不満をいう。子供は勉強が遅れているからだと自答する。子供と買い物にでかけたり、デパートに連れていくとよるこんで態度が明るくなったと言う。勤めを止めたために家計が苦しくて、市の援助が少なくて困ると訴える。

第6回（8月25日）

夏休みで子供にふりまわされ、内職が思うようにできないと不満を訴える。他人の子供は友だちと外でよく遊んでいるのに、自分の子は家の中にばかりさわいできて困る。私はあの年代のころには、遅くまで遊びすぎてしかられたくらいだと言う。自分の中学生当時を思い出し、そのころ親に言われていや

だったことを、今自分が子供にしていることに気付いた。自分の気持ちを子供に押しつけたり、他の子供と比較してきたのは誤りで、これからは注意しなければと自覚する。帰るときには気持ちをはげましたと言う。

(5) 諸機関との協力

学校だけの指導では十分といえず、特に学校での指導には限界がある。そこで可能な限り諸機関に協力を要請し、各方面からの援助をお願いした。

- 児童相談員 — 母親の子に対する養育上の問題が多い。特に毎日の家庭生活が子供の生活に大きな影響を与えるので、規則的な生活や生活上の基本的な事柄の指導を依頼する。
- 民生委員 — 家計のあり方、特に学校での必要経費を準備しておくこと。食生活のあり方、衣服の清潔などの指導を依頼する。
- 警察の婦人相談員 — 婦人の立場から母親の相談相手になってもらう。

V 結果と考察

○Mの態度

学校における生活態度に少しずつではあるが変化が見られるようになった。しかし、まだ集団生活には消極的で、特に親しいと言う友だちもみられず孤立の傾向が残っている。学級には全体でMを暖かく包むようなふん囲気であられ、M自身も集団への拒否的態度がみられなくなり、友だちと一緒に町へ出かけることもあり、微力ではあるが集団生活に融和しようとする努力がみられるようになった。無断欠席が見られず、欠席は病気だけとなり、母に必ず学校へ連絡させている。忘れ物もしなくなり、宿題をしなかった時には、白紙のままでも提出し、素直にできなかった理由を報告する。学習態度にも明るさが現われ、質問されてもだまっていたまうなだれることが少なくなり、割合にははっきりと応答するようになった。家庭での生活も、部屋を掃除したり、近所に友だちができて一緒に遊んだことが日記にみられるようになった。

○母の態度

子供への接し方が冷静になり、感情的なしかり方がなくなり、子供の長所を見付けだすことに努力し、一緒に遊んでいる姿が見られるようになった。生活も規則的になり、子供の起床、就寝時間にも気を配り、部屋も整理され、身なりもきちんとし清潔感を持つようになった。近隣関係も好転し快くあいさつを交わしているようである。子供への期待感も学力それ自体でなく、人間性、社会性を伸ばすような考え方に变化した。

おわりに

この生徒に対する昨年の指導補助簿をみると、「・・・だれともかわりをもたずに、自分一人であることを好む傾向が強い。・・・」とメモしてあった。おとなしくて、教室では目立たない。このような概念で生徒をみてしまう。深く観察するとこのような生徒にもいろいろ内面的な問題が多い。親と教師が一人一人の子供を正しく理解し、好ましい人間関係をつくることが教育だと考えるようになった。